

第5次総合計画・第2期総合戦略（原案） 意見の要旨及び市の考え方

- 1 募集期間:令和2年12月14日(月)~令和3年1月22日(金)
提出件数:17人 46件
- 2 意見の趣旨及び市の考え方
取扱区分:A(意見を反映)3件, B(実施にあたり考慮)8件, C(原案に考慮済み)3件, D(説明・回答)32件

番号	項目	該当箇所	市民からの意見（原文）	取扱区分	市の考え方
1	全体		<p>第5次総合計画・第2期創生総合戦略と新行財政改革基本計画を読みました。まず、第4次まではあいまいであった積極的な成長(現実的には維持に近い)戦略が明確化され、まちづくりという抽象的なものから、子育て支援や労働者人口へのサポートを中核にクリアに据えたことをとても評価しています。少子高齢化とそれによる財政のひっ迫が何にも勝る緊急課題であることが今回の報告にはしっかり定義されており、「変革」を期待させる内容だと感じました。</p> <p>第5次総合計画・第2期創生総合戦略に関しては概要も非常に一般の市民にわかりやすくまとめられており、そうした市民寄りの姿勢からも今回の計画書には以前のものに比べ期待感を与えてくれるものでした。</p> <p>その中でもやや違和感を覚えた点、よりよい「伝え方」という観点で私の視点が多少でも参考になればと思い、以下の点を挙げさせていただきます。</p> <p>前述の二つの文書を読んで、一貫性が感じられなかった、または不明であった部分があり、それは市民がもつ課題意識と行政のもつ課題意識です。</p> <p>両提案書において人口問題とひっ迫される財政が命題のように読み取れますが、それをどのように解決するかがより明確に定義されるといいと思います。財政のひっ迫に関しては、歳入の確保、すなわち「少子化をとめる」と歳出の最適化の両輪を想定されているのかと読み取ります。人口問題は「出生率をあげる」と「流入を増やし流出をおさえる」、そのための子育て支援や刺激策があるのかと推察します。課題は列挙してあります。</p> <p>が、上記は私の推察ですが、芦屋市がどう課題に対して対処しようとしているのかフォーカスする「戦略」が明確に定義されていると、後の子育て支援や芦屋の付加価値形成などにスムーズに理解できるように感じます。</p>	A	<p>人口減少と行財政運営の関係については、前期基本計画の施策目標12において「人口減少社会に対応した健全で効果的な行財政運営が行われている」としており、基本施策として12-1, 12-2で主な施策内容を掲載しております。</p> <p>また、特に「人口減少の緩和」「人口減少に対応したまち」への対応としては、第2期創生総合戦略において基本目標1「子育ての希望がかなう」及び基本目標2「人がつながり活躍し、暮らしの魅力が高まる住宅都市」を基本に施策を推進し、さらに、原案53ページにおいて、課題や現状に対する戦略的な施策として、本市の特性に合わせた横断型プロジェクトとして3つの重点プロジェクトを設定し、重点的に推進することとしております。</p> <p>なお、本市の直面する最大の課題は人口減少及び少子高齢化による人口構造の変化であると考えており、財政状況の変化は環境の変化の1つであると捉えています。</p> <p>よってより分かりやすいように原案9ページの「財政がひっ迫していく」を「財政構造が変化する」と修正し、説明文についても一部修正します。</p>
2	全体		<p>第5次総合計画・第2期創生総合戦略(概要)のP.11において左半分に芦屋の現状(行政サイドの問題意識)があり右半分に市民が芦屋の課題について「考えた」とある。が、市民が考えた課題として芦屋のいいところの列挙はあるがなにを「課題」と認識しているかはまとめられていない。市民が捉える課題と行政が捉える課題がマッチしていないのではないかと勘繰ってしまう。行政サイドの提案から感じられる危機感と市民の提案とのギャップを感じてしまう。後述の指摘点ともかぶりますが、市民と市が課題の共有ができていないのか、それを知ることも含めて行政が人口問題に取り組む上で顕在化させるべき課題のひとつではないかと考えます。</p>	C	<p>概要版は全体像を簡潔に理解いただけるよう原案の内容を抜粋したうえで作成しております。</p> <p>計画の検討に際しては、市民アンケート、団体インタビュー、市民ワークショップ等を実施したうえで、市民の考える問題点や課題を把握し、検討資料とするとともに計画に反映しています。</p> <p>なお、原案6ページにおいて、<芦屋市の好きなおところ、気になるおところ>に課題も含めた市民ワークショップでの意見を掲載しております。</p>
3	全体		<p>芦屋市創生総合戦略および新行財政改革基本計画と第5次芦屋市総合計画(基本構想と基本方針とそれ以外)の位置づけと整合性・関係性</p> <p>芦屋市創生総合戦略と第5次芦屋市総合計画の二つの提言において、芦屋の課題を前述の人口問題とする芦屋市創生総合戦略と第5次芦屋市総合計画の基本構想と基本方針以外の部分は一貫性があるように見受けられる。それらでは少子高齢化による今後の財政の困窮が芦屋市の課題としてメインに据えられ、芦屋市創生総合戦略において少子化対策を軸とする施策を主とした各種政策や新行財政改革基本計画では歳出の効率化などが書かれているように受け止めました。それに対し、第5次芦屋市総合計画に含まれている基本構想と基本方針だが、ここには、緑・文化があってみんなにとって住みやすいまちづくりから、ひとのつながりのまちに置き換わったぐらいの漠然とした感がある。第5次総合計画第2期創生総合戦略P.14の「人がつながり」が将来に向けて人口が絶えないというニュアンスとそれを構成する視点とされるP.15「人のつながり」同時代における人と人の連携というニュアンスのものと別物に感じられ、逆に混乱する。P.16の図は芦屋が描く将来像に対し、人口、災害などの問題がなどのチャレンジを踏まえてネットワーク、資源、暮らしやすさという枠組みを使って実現することだろうか。</p> <p>そのブリッジとなる未来の創造という観点について説明が具体的にあっていいのではないだろうか。</p> <p>P.13-16での内容とそれ以前と以後の戦略とのリンクがすっとはいっていいくない。P.45とP.49で基本目標の1と2の優先順位が変わっているようにも読める。(書いてある順序が優先順位だと勝手に推測しているが)</p> <p>将来像、課題、3つの視点、そしてそれに依拠するはずの基本計画の関係性をより整理していただくことより理解しやすい内容になると思います。明記はされていませんが、行政側が認識する課題と将来像のブリッジは、いままでより積極的にフォーカスして人口問題に取り組むことで出生率をあげるとともに、労働人口とこども人口の流出・流入のバランスをプラスにし、持続可能な歳入減を確保すること、限られた資源の最適な投資により増加する行政サービスへのニーズに応えるということなのかと行間を読みます。人口問題という課題に対する戦略?であるはずの「未来の創造」という部分の説明、すなわち、私の理解が正しいのであれば芦屋が人口問題に出生率・流入者の増加、流出のストップおよび資源や資本の最適化という「戦略」を説明せずして「視点」という概念が紹介されることに混乱をおぼえる。「人のつながり」や全方位的な「暮らしやすさ」の中で十分に出生率があがるかと考えているのか。どこにフォーカスしたいのか戦略の明記を視点の中では感じ取れない。そうなっていない現状に対し子育て支援を中核とする戦略が明記されている第5次芦屋市総合計画とそうでない芦屋市創生総合戦略の違いはなんなのかわかりません。</p>	A	<p>基本構想は、将来像の実現に向け、基本方針及びこれを構成する3つの視点を持って各施策を推進することを定めたものです。</p> <p>将来像の「人がつながり」と基本方針の「人のつながり」に関しては、市民ワークショップや団体インタビュー等での幅広い声を踏まえて表現しております。「未来の創造」については、原案15ページにおいて、具体的に説明しております。</p> <p>なお、各項目については14~16ページにおいて内容を記載しております。</p> <p>総合計画は市の最上位計画であるため、市政全般にわたって記載するものであり、以下のように構成しています。</p> <p>序章:総合計画の説明・本市の現状等を説明 基本構想:10年後に目指すべき姿(将来像)やその基本的な考え方(基本方針)を説明 基本計画:基本構想を実現するため、具体的な事業を説明 創生総合戦略:人口問題に特化した部分として説明</p> <p>なお、45ページ上部に記載の基本目標は第1期創生総合戦略の内容であり、前期基本計画の順序に合わせた第2期創生総合戦略とは、異なっています。</p> <p>なお、ご指摘を踏まえ、より分かりやすいように総合計画と総合戦略の関係について、序章に記載します。</p>
4	全体		<p>基本方針で示されている様に、市に於いて高齢化がすすみ本年2月時点で高齢化率は29.5%であり兵庫県41市町村の平均率28.7%を上回っています。</p> <p>このような中、市においても時代に適した法やデザインによるまちづくりが必要であると考えます。</p> <p>そのためには、高齢者は勿論、障がい者、妊婦、子供等全ての市民が利用しやすく、暮らしやすい社会となるよう、「ユニバーサルデザイン(UD)」を取り入れたまちづくりを進めていくことが必要です。</p> <p>高齢者、障がい者、専門家等による「芦屋市UDのまちづくり協議会」を設けて議論していただきたいと思ひます。</p>	D	<p>基本構想における基本方針を構成する3つの視点である「暮らしやすさ」において、ユニバーサルデザインも取り入れたまちを目指すとされており、ユニバーサルデザインに特化した協議会の設立までは考えておりませんが、職員一人ひとりがこの観点をもって取り組むとともに、必要に応じて各関係機関、附属機関等においてもご意見をお伺いしながら進めてまいります。</p> <p>また、総合計画にSDGsの視点を取り入れており、「誰一人取り残さない」という理念のもとに施策を実施することからもユニバーサルデザインの実現に努めてまいります。</p>

番号	項目	該当箇所	市民からの意見（原文）	取扱区分	市の考え方
5	全体		<p>まずは、前提として「市民意見募集」の在り方への意見を述べる。 かつては「広報あしや」に募集の件名とともに、その説明も付して掲載された。 ところが今回は件名だけ。 主権者たる市民に大いに意見・提案を出してほしいとの意欲の後退(欠如)を感じる。 11件もの意見募集であるから、当然ながら関係するテーマ(とくに総合計画、行財政改革、公共施設などは個々の施策にすべて関わる)があるが、応募する際は「個々の件名に応じて」ということになっている。 以上のように、「市民意見募集」についての「総論的な意見」も出しやすくしていただきたい。 そのうえで、本件についての意見を述べる。 全体を通じて「きれいで抽象的なことばが連なっており、市民生活の現実はどう向き合うか」が感じられない。 例えば「子育て世代に選ばれるまちを目指す」と言いながら、「公共施設…」計画で小学校の統廃合を掲げるような感覚は理解できない。 「総論」と「各論」の関係も含めての根本的な検討を期待する。</p>	D	<p>市民意見募集の在り方につきましては、「広報あしや」では、多くの方に手にとってご覧いただけるよう、文字を大きくし写真を多用するなど視覚的な読みやすさの工夫に努めており、紙面では主だった項目の掲載にとどめ、詳細については市ホームページにてお知らせしているところです。 各計画のパブリックコメント募集では、「広報あしや」で各計画の概要までお伝えするには相当な紙面スペースの確保が必要となるため、スマートフォンなどからも市ホームページへのアクセスが可能なQRコードを表示することにより、各計画の詳細のご確認とともに、パブリックコメントを送信いただける募集フォームを掲載し、ご意見をいただきやすいよう取り組んでいるところですので、ご理解いただけますようお願い申し上げます。 また、複数の計画に関連するご意見の受付につきましては、今後は、提出方法のわかりやすい説明を加えるなど、周知方法を見直してまいります。</p> <p>総合計画は、市の長期にわたる総合的かつ計画的な行政運営の指針となるものであり、各施策分野の目的や方向性を示すものとなります。 そのため、前期基本計画においては主な施策として代表的な施策を記載しており、具体的な取組においては、課題別計画において示しております。</p> <p>将来の人口などにも意を用いながら、本市に適した子育て施策を推進してまいります。</p>
6	全体		<p>この度は、パブリックコメントの案内を戴き、どうも有難う御座います。今回、「政策推進課のワークショップ」に参加させて貰い、市民並びに市職員の方々と膝をまじえて、お話が出来た事は本当に良い体験になったと感謝しております。芦屋には、まだまだこんなに熱心に将来を語る人がおられることもわかり、多様性の時代の様々なご意見も耳にし、行政のお仕事の大変さを垣間見た思いもしました。計画づくりどうもご苦労様でした。立派な計画を眼にし、ワークショップの一員として少々誇らしくも思いました。 以下に、今回チャレンジしたパブリックコメントを示しますが、これがパブリックコメントになるのかどうかは、全く自信は御座いません。貴職に御一任致しますので、取捨選択の程、宜しく申し上げます。</p> <p>1. 1課題認識 少子高齢化を前提としたまちづくり、A地域価値の持続・発展的継承、Bまちづくりへの市民・事業者の参加と協働、C行政区を越えた市外地域との広域連携を課題として挙げ、更にその留意点として、(a)市民と行政間のビジョンの共有、(b)SDGs・地方創生の取り込み、(c)戦略的施策の分野横断(課、係)による推進、(d)PDCAの推進を謳われておられ、簡潔かつ適格でPDCAも上手く回った前期計画作りへの課題提示と感じた。</p>	D	<p>今後の10年間を見通した際に、人口減少、少子高齢化が大きな課題となります。市民ワークショップの際にもこれらの課題を踏まえて、参加いただいた皆さまには様々なご意見をいただいたうえで、基本構想を策定してまいりました。前期基本計画においては、市民目線で分かりやすい計画となるように表現方法を審議会での意見等を踏まえて策定してまいりました。第5次総合計画策定後は、市民と行政がビジョンを共有できるような情報共有を行ないながら、将来像の実現に向けて施策を推進してまいります。</p>
7	全体		<p>掲題計画は、全体を通して芦屋の人口減少が基本にあると思います。 なぜ人口を増やす、増えるような特徴ある市政にしていく姿勢がないのでしょうか？</p> <p>市政は、常に市民に対するサービス向上を目指すべきで、人口減少を必然のように唯々受け止めるだけで、サービス低下の施策を綿密に計画する、これは市政の本筋に逆行することではないでしょうか。</p> <p>明石市は、子育て層に焦点を当てた施策で、人口が増えています。 施策も特徴あるものになっているように思います。</p>	D	<p>今後、日本全体の人口が減少する中、本市では社会増は堅調ですが、自然減が加速度的に進んでおります。人口減少に歯止めをかけるため、第2期創生総合戦略も合わせて策定し、引き続き社会増に向けた取り組みや出生率向上の施策を進めてまいります。避けがたい総人口の減少に対応したまちづくりに向けて、持続可能な行財政運営を行っていく必要があると考えております。</p>
8	全体		<p>少子高齢化による人口減少は仕方がないという前提ですが、同県の明石市が子育て施策に力を入れた結果人口のV字回復と財政収支の黒字化を達成した事例もあり、芦屋市もまだ人口増加に向けてやれる事がたくさんあるのではないかと感じます。 明石市は子育て世帯が移り住む子育てしやすい街となることで出生率も上がり、経済の活性化にも繋がっていることから、芦屋市もこのモデルを参考にしたいです。 芦屋市は治安の良さと、自然の多さと交通の利便性を両立している点などが子育て世帯にも大きな魅力となるはずですが、しかし、家賃や物価が高い高級住宅街のイメージが強く、移住のハードルが高くなっているのではないかと感じます。 芦屋市の魅力と共に、子育て世帯に経済的負担が少なく安心して暮らせることをアピール出来れば近隣都市からの人口の流入を見込めるのではないのでしょうか。 例えば明石市では子どもの医療費や2人目以降の保育料の無料化などを実施しています。 芦屋市も、教育環境の整備や待機児童解消に向けての政策などには力を入れているとは思いますが、子育て世帯への経済的負担の軽減に関しては世帯収入を問わずもっと保障すべきだと感じます。 産休や育休、時短勤務で収入が減少するケースも多い共働き世帯が増えている中、より手厚い子育て支援に期待しています。</p>	D	<p>今後、日本全体の人口が減少する中、本市では社会増は堅調ですが、自然減が加速度的に進んでおります。人口減少に歯止めをかけるため、第2期創生総合戦略も合わせて策定し、引き続き社会増に向けた取り組みや出生率向上の施策を進めてまいります。避けがたい総人口の減少に対応したまちづくりに向けて、持続可能な行財政運営を行っていく必要があると考えております。</p> <p>なお、子育て世帯には新生児訪問などきめ細やかな対応に加え、共働き世帯の増加などによる待機児童対策には、令和3年度から市立西藏こども園を開園するなど、引き続き取り組んでまいります。</p>
9	全体		<p>●「少子高齢化」とひとくくりにしてあるが、「少子化」と「高齢化」は違うのではないだろうか？「少子化」は現在の日本の現状からして的確な対策を打てば解消への方向性が見いだせると思うが、「高齢化」は自然現象であり、高齢者の大きな層が死に至るところまでどうすることもできない。この二つを一つで考えるから、少子化対策がおざなりにされているのではないだろうか？</p>	D	<p>ご指摘の通り、少子化と高齢化は異なる事象ですが、その結果として人口構造を変化させ、様々な問題を引き起こす課題であることから、「少子高齢化」と称することが一般的であるため、原案の通りとします。 なお、少子化への対策として第2期創生総合戦略に基づき出生率の向上に取り組んでまいります。</p>

番号	項目	該当箇所	市民からの意見（原文）	取扱区分	市の考え方
10	全体		<p>●コロナとともに人間が直面している大きな問題は、地球の温暖化。人間が地球に住めなくなる可能性がますます高まってきている。日本列島でも全国で豪雨・暴風・河川氾濫など自然災害が頻発してきた。そうした中、2050温室効果ガス実質ゼロを菅首相は明言した。世界と足並みをそろえ、日本も地球温暖化防止に急速に走り出さないと間に合わない。そういう状況下で、総合計画原案は全く不十分だ。芦屋を取り巻く環境の変化に、地球温暖化の文字はなく、地球温暖化に触れられているのはP28.P29のみ。見直しを求める。</p> <p>・p28の「地球温暖化防止に向けた取り組み」として挙げられた項目は、「マイバッグ」「公共交通の利用」「冷暖房や給湯の温度控えめ」などである。こんなことだけで2030年40-50%削減、2050年ゼロが実現できるのだろうか？2030年までの10年の取り組みが本当に大事、この10年が正念場と言われているときにこれでいいのだろうか？行政としては「率先実行計画」に書かれている内容をやっていくことになると思うが、総合計画になっていいのか。「公共施設はすべて自前でエネルギーをまかなう」とか現実に数字を動かす計画をあげることが必要ではないだろうか。また芦屋市としてCO2を発生させるエネルギー源からの電力は使わないことを明らかにさせないと2050年ゼロの芦屋市の目標にはならない。一切の躊躇をなくし、2050年ゼロにするためにはこの10年で何をしなくてはならないかを明らかにしてこそ総合計画だと思う。</p> <p>・対市民的には、CO2発生由来のエネルギーを使わない、電力会社を選択することを情報提供することが、2050ゼロをめざす行政の役割として求められていると思う。</p>	A	<p>ご指摘を踏まえ、原案9ページの「社会の様々な側面での大きな変化がある」に、「地球温暖化の進行」を追記します。</p> <p>また、施策目標6における課題にも追記します。</p> <p>なお、総合計画は市の長期にわたる総合的かつ計画的な行政運営の指針となるものであり、各施策分野の目的や方向性を示すものとなります。</p> <p>そのため、前期基本計画においては主な施策として代表的な施策を記載しており、具体的な取組においては、課題別計画において示しております。</p>
11	序章	7ページ	<p>第5次総合計画・第2期創生総合戦略P.7 多くの市民が住みよい、住み続けたいと感じるまちだが、このデータからなが読めるのかがわかりにくい。他の都市や全国平均との比較がないと、住み続けたい人が「多い」のは事実だが、それがなにを意味するかわからない。住んでいる人にアンケートをとったら、よほどのことがない限りたいがいどこのまちも住み続けたいということになるのか、特に芦屋は魅力的なまちだということを示唆しているデータなのか、これだけではよくわかりません。さらに、前述の危機的な人口問題や財政問題から来る市の将来性と現在の出生率の低さから見える現状の問題点を踏まえてそれでも住みたいと言っている人が大半なのであれば、それは市民のあきらめ、無関心、行政への過度の期待、いったいなにを表しているのか。今後、行政が変革を遂行していく上で現状満足な人が大半なかでどう危機感を共有していくかが課題となるということでしょうか。年代別定住意向データにおいてもライフステージや余生の長さも違うなかで定住意向が変化していくのは芦屋市特有の事象とは考えにくいので、芦屋市のみデータからどういう結論が導き出されるのかがよくわかりません。</p>	D	<p>同一のアンケートが全国一律で実施されていないため、他都市との単純な比較は困難ですが、本市の居住満足度に関する調査により高い傾向であることは認められると考えております。</p> <p>人口減少等の諸課題を市民と行政が共有しながら、引き続き市民の満足度の維持向上に向けた施策を推進する必要があると考えます。</p>
12	序章	8ページ	<p>最後に、第5次総合計画・第2期創生総合戦略P.8のグラフは衝撃的です。肌では感じていましたが、数字で見せられると非常に強い危機感を感じさせられます。今回の質問でも触れましたが、市民からのアウトプットとして出ている芦屋の魅力、定住意向や10年後の理想と、この現実の数字の間には大きな温度感の差を感じます。私はそれは問題意識の差からくるギャップと考えます。もしそうなのであれば、人口問題解決の第一歩は行政・市民間の問題意識の共有だと感じます。長くなりましたが、ぜひとも、今回の各提案書において課題と戦略、優先順位をあいまいにすることなく定義していただけるよう期待します。</p>	C	<p>基本計画の各施策において課題を明確にするとともに、創生総合戦略において重点プロジェクトを設定するなど、課題に対応した戦略的な政策展開を図ることを意図して計画策定を行っています。</p> <p>また市民と行政の問題意識の共有に向けては、前期基本計画の基本施策11-2において、効果的・効率的な情報共有に努めることを位置付けております。</p>
13	基本構想	14ページ	<p>キャッチフレーズを最初に見た時は思いませんでしたが、印象に残って覚えやすいし、計画を直感的に理解できると思いました。市民の理解を得るためには、まずはこの言葉を覚えてもらうことなのではと思います。どの様にして市民に知ってもらおうとしていますか？</p> <p>また、キャッチフレーズの表記が、薄い色で書かれています。少し見えにくいので工夫をお願いします。</p>	D	<p>キャッチフレーズの「ASHIYA SMILE BASE」は、総合計画策定における市民ワークショップで提案された将来像であり、第5次総合計画の将来像「人がつながり 誰もが輝く 笑顔あふれる住宅都市」をコンパクトに表現したものと位置付けております。</p> <p>このキャッチフレーズを今後の市のあらゆる施策での広報等において活用することで、広く市民にも認識いただき、市民と職員が総合計画を我が事として関わり将来像を実現するためのきっかけとなるよう努めてまいります。</p> <p>また、総合計画の冊子作成時には、分かりやすいものになるようデザインいたします。</p>
14	前期基本計画全体	17ページ	<p>1.2. 前期計画 分野別施策数の内訳 分野別の施策数は、子育て・教育分野には3つの施策、福祉分野並びに、安全・安心分野、都市基盤分野は各々2つの施策、市民生活のみが一つの施策、更に行政・経営分野に3つの施策が打ち出されており、バランスの取れた施策配置になっていると感じた。ただ、ネーミング面では地域価値(芦屋らしさ?)を表す分野が無いのを寂しく思いました。</p>	D	<p>施策体系について評価いただき、ありがとうございます。</p> <p>将来像に「住宅都市」と掲げ、施策目標9においても「住宅都市の魅力が受け継がれ、高められている」と定めることで、先人が築いてこられた良好で個性ある住宅都市としての芦屋の特徴を表現しております。</p> <p>なお、分野別の名称については、端的でわかりやすさを重視しており、施策目標において、本市として目標とする状態を表すこととしております。</p>
15	前期基本計画全体	17ページ	<p>●「公共施設の最適化」ということで集会所や小中学校の統廃合を提案しながら、施策目標10では、「南北の移動について課題、交通の円滑化に取り組む必要」というのは財政面で整合性が取れていないのではないかと加えて、人口減少社会になれば、車も減っていくし、AIなどの発達で自家用車を所有するという形態も大きく変化するのではないかと考えられる。空を飛ぶ移動手段ということも考えられるのに道路整備を掲げるのは先が見えてないのではないかとと思われる。稲荷山線・山手線・阪神立体交差など調査研究が無駄にならないだろうか。</p>	D	<p>本市は、既に人口減少局面に入っており、更なる少子高齢化に伴う社会保障関係経費の増加等により、厳しい財政状況が想定され、持続可能な行政サービスの維持・向上を図るためには、今ある全ての公共施設を保有したまま、更新を続けることは困難な状況です。</p> <p>「公共施設の最適化構想」は、将来世代へ負担を持ち越さない施設保有量となるよう公共施設の総量縮減を図るため、今後20年間に更新予定の施設の再配置に係る戦略的な考え方をお示しするもので、持続可能な行政運営を行う上で、必須の取組であると考えております。</p> <p>一方、市民の安全・安心を守り、利便性を向上させることが行政の役割ですので、交通の円滑化については、財政状況や将来の人口、技術の発達にも意を用いながら調査研究してまいります。</p> <p>人口減少局面における持続可能な行政運営の見直しを立てるための行政改革等の取組と総合計画及び創生総合戦略に基づく人口減少対策、人口流入等の施策等はいずれも並行して進めていくべき重要な取組であると考えており、それぞれの整合を図りながら進めてまいります。</p>
16	前期基本計画 施策分野1 子育て・教育	18ページ	<p>施策各論 ・施策1:誰もが安心して生み育てられる環境が充実している 情報を共有できる機会と場所の提供等の利用者への配慮がなされている、更に、指標も、事業の実施回数ではなく、「事業の利用者数(現状約40千人、目標約60千人)とした上に、利用者の満足度までも加えた出来栄の見える指標」とされているのには感心しました。又、JCOMで拝見したが、早々にオンライン事業も手掛けておられ、先進的で素晴らしい取り組みと思う。</p>	D	<p>指標については、可能な限り取り組み状況を示す「アウトプット」でなく、効果を表す「アウトカム」となるように設定しております。また、各事業においては、ICT等も活用し様々な工夫をしながら実施しているところです。</p>
17	前期基本計画 施策分野1 子育て・教育	18ページ	<p>第5次総合計画・第2期創生総合戦略P.18の一丁目一番地の施策目標が?C 子育て世代の保護者の子育て環境や支援への満足度(%) 23.6→ 29.0(R7)というのには正直ガクッときました。</p>	D	<p>目標値は、過去の実績等を踏まえた上で、5年間で目指すべき数値としております。</p>

番号	項目	該当箇所	市民からの意見（原文）	取扱区分	市の考え方
18	前期基本計画 施策分野1 子育て・教育	19ページ	第5次芦屋市総合計画・芦屋市第2期創生総合戦略への意見をお送りします。 子育て・教育 施策分野1 1-1 仕事と子育てを両立できる環境整備を進めます 両立には保育所が不可欠ですが、園庭を必ず併設するなどの子供の成長への配慮や、虐待や不適切な指導のないような監視をお願いします。 あしやキッズスクエアについて、今のところ悪評は聞きませんが、完全にボランティアで運営されていることに多少の不安があります。 有資格者の常駐をするなど、事故のないうちに、安全面への配慮を検討いただきたいです。	D	就学前の子どもの人口推移を踏まえ、地域における教育・保育需要に認定こども園を中心として引き続き整備を進めてまいります。整備にあたっては、施設整備に係る基準に則り、園庭等を含め適切な教育・保育環境の提供に努めてまいります。 また、教育・保育内容については、常に保育の質の向上を目指すとともに、保育所等に対し必要な指導監督を引き続き行なってまいります。 あしやキッズスクエアは、小学校区にお住いの方、ボランティア経験者、小学校教員をリタイアされた方等に有償ボランティアとしてお願いをしております。また児童の自主性を重んじ、自由な居場所づくりとしており、預かり事業ではなく保護者の方にも責任の一端を担って頂くことも含めご理解を頂き、運営しております。児童が遊びの最中に起こった事故に対応できるよう発足当初、消防署において救急救命研修を実施致しました。 今後も、児童の居場所を提供する事業として、地域や保護者をはじめ市民の方にご理解を頂き、事業を進めてまいります。
19	前期基本計画 施策分野1 子育て・教育	19ページ	1-2 子どもの命と健康が守られ、安心して子育てできる環境をつくります この10年程度だけでも出産できる病院の数が半減しました。 小児科については増えた箇所もありますが、産科医院が増える兆しが見えません。 市内で安心して出産できるよう、助産院や産婦人科の新規設立への後押しが必要と考えます。	D	医療機関の開設の許認可に係る事務は、都道府県が所掌しておりますが、芦屋市医師会等の関係団体と連携し、安心して出産・育児していただけるよう、産後ケア事業をはじめ、相談業務等についても、積極的に取り組んでまいります。
20	前期基本計画 施策分野1 子育て・教育	22ページ	・施策3:生涯を通じた学びの文化が醸成されている。 文化の継承と生涯学習の二つの大きな課題に取り組む非常に意欲的な施策と思う。文化の継承面では、文化財ボランティア育成も手掛け、更に近年、郷土資料館とも云える三条事務所の定期公開もスタートし、活用に向けた情報公開も進められている。又、生涯学習面では、美術博物館運営協議会の意見を、タイムリイに運営に反映し、美術博物館の魅力アップ、文化ゾーンの魅力アップにも取り組まれている。 ただ、いずれも大きな課題の為、一つの施策に押し込むには無理があり、指標の設定も難しいと思うので、二つの施策に分けた方がわかり易いと思いました。 また、文化の継承は、5次計画の課題 Aの地域価値の持続・発展的継承の根幹でもあるので、関連の市民生活(施策6良好な生活環境)並びに都市基盤(施策9住宅都市の魅力(景観、住環境))とグルーピングして、一つの分野(=芦屋らしさ(仮称))とするのも一案と思いますが、種々のご意見がある所と思う。	D	現在までの課題として、芦屋の文化を次の世代に継承するためには、まちの魅力を発信するとともに、幅広い年代の市民が継続して自主的に活動する仕組みが必要であると考えておりますので、「文化の継承」と「生涯学習」は一体のものとして捉えております。 また、文化の範囲は、本市では芸術・芸能・生活文化などいわゆる「文化」だけでなく、食や景観など広い視点を対象としており、これらの文化施策については、課題別計画である「第2次文化推進基本計画」の中でとりまとめ推進してまいります。
21	前期基本計画 施策分野1 子育て・教育	23ページ	・公民館の使用料を安くしてほしい。	D	適正な受益者負担の観点から施設使用料の引き下げは考えておりませんが、従前から社会教育関係団体が社会教育に関する事業を行うときには、使用料の減免を行っています。
22	前期基本計画 施策分野2 福祉健康	24ページ	・介護保険制度が変わる場合は、住民によくよく説明をしてください。	B	介護保険制度については、制度の改正も含め、広報、ホームページ、パンフレット等の多様な媒体を通じて、幅広く市民の方に周知・説明してまいります。
23	前期基本計画 施策分野2 福祉健康	24ページ	・介護保険制度をもっと充実させてほしい。	D	本計画の施策目標4-2-2で掲げているように、高齢者がいつまでも安心して暮らせる取組の推進として、高齢者を支える地域包括ケアシステムと認知症施策の総合的な取組を推進してまいります。併せて、分野別計画である「芦屋すこやか長寿プラン21」においても、介護サービスの充実による安心基盤づくりとして、介護保険制度の在宅サービスや施設サービスの充実等に取り組んでまいります。
24	前期基本計画 施策分野2 福祉健康	27ページ	・PCR検査を多くの人にして、隔離・入院設備を充実させてほしい。(希望者はいつでも受けられるように)	D	新型コロナウイルス感染症の患者の宿泊・入院調整は、都道府県が実施主体であるため、市が直接携わることではできませんが、PCR検査につきましては、令和2年6月から当該検査の実施医療機関において、芦屋市医師会の医師が診察と検体採取を行う協力・連携体制を整備し、受検者数の増加に資する取組を進めております。
25	前期基本計画 施策分野3 市民生活	29ページ	P28 施策目標6 良好な生活環境 「清潔なまちを協働で維持する」に関連しての提案 私は、犬を飼って毎日散歩をさせています。これは自分の健康にも良いことなので続けていますが、もちろん散歩の時は犬の糞は持って帰り、シッコは多い時は水を流しています。 しかしながら、ほかの犬の糞がよく散在しており、他の犬の糞を回収する気になりません。数日すると、近くのマンションの掃除係の方が回収してくれるのか、なくなっています。 同じ犬を飼っている人間として、特に糞を放置することはとても我慢なりません。自分はちゃんと回収しているのに、ほかの人が見たら、「あの人は糞を放置している」と勘違いされるのではないかと思います。 まさに、良好な生活環境の確立のためにもっと規制してもらいたいです。看板などかなり努力をしていますが、今が十分といえないと思います。 つきましては、どこか他の市で犬の登録時に糞のDNAを登録しておき、放置された糞を検査して放置した飼い主に回収させ、罰金を払わせるなどをしてほしいとの情報に接したことがありました。 すでに検討をしたのかしれませんが、再検討をお願いします。	D	犬の散歩マナーについては、第2次市民マナー条例推進計画に基づき、市民マナー条例指導員による巡回のほか、フェイスブックを活用した情報発信、自治会掲示板用の啓発物の作製等により、地域の特性に応じた監視・指導体制や啓発物を整備しつつ、自治会等の地域団体と積極的に協力体制を築くことで、違反しにくい環境づくりを行い、清潔なまちを協働で維持してまいります。
26	前期基本計画 施策分野3 市民生活	29ページ	施策分野3市民生活 6-1 清潔なまちを協働で維持する取組を進めます 子どもたちが遊んだりペットも散歩する公園に落ちている吸い殻は健康被害も心配され、危険です。 タバコのポイ捨てゼロになるくらい厳しい取り締まりをしてもよいと思います。	B	たばこの吸殻や空き缶等のポイ捨てについては、市民マナー条例により禁止されていることから、特に違反の多い地域について、指導員による巡回を実施しているところです。 なお、都市公園での喫煙については、県の条例(受動喫煙の防止等に関する条例)により喫煙自体が禁止されていることから、順次、公園内に喫煙禁止の看板を設置し、啓発を行うことで、対策を講じてまいります。
27	前期基本計画 施策分野3 市民生活	29ページ	ゴミを分別出しをもっと細かくして、焼却場の分別作業低減を企てること。各家庭から出す段階を色別袋で区分させること。	B	分別の品目については、国の動向、施設の処理能力を勘案し、必要に応じて検討してまいります。
28	前期基本計画 施策分野4 安全安心	31ページ	・施策7:災害に強い町づくりが進んでいる 防災面での各人の意識(自助、共助、公助連携)の大切さを喚起し、更には防災リーダーの育成まで視野に入れており、実践的な取り組み施策と思いました。	D	防災・減災には、公助はもとより、自助、共助も重要になることから、自助、共助に関する情報の発信や体制の充実を図ってまいります。
29	前期基本計画 施策分野4 安全安心	31ページ	防災に関して、昨年の九州での豪雨被害のように、コロナ禍で自然災害が起きた場合の対策は万全であるか非常に心配です。 感染対策やプライバシーの確保、防犯の面でも簡易型テントを各世帯が使用できるよう準備して欲しいです。 また防災備蓄品として、液体ミルクや哺乳瓶、紙オムツ、生理用品なども追加すべきではないでしょうか。 「自助」ももちろん大切ですが、災害という予測不能の事態に個人の力では限界があります。 どのような立場の人も安心して避難できるよう配慮が必要ではないでしょうか。	B	感染症に対応した避難所開設運営マニュアルを作成しており、対策を講じた訓練を実施する中で、市職員や自主防災組織等を対象に避難所内におけるルール等について周知を図っております。 感染症やプライバシー対策としてのパーティション等資材に加え、液体ミルクや哺乳瓶、紙おむつ、生理用品等の物資についても一定数備蓄しており、避難所環境の向上を図ることとしております。

番号	項目	該当箇所	市民からの意見（原文）	取扱区分	市の考え方
30	前期基本計画 施策分野4 安全安心	31ページ	施策分野4安全安心 7-1 まちの防災機能を高めます 日本は、プライベートスペースを確保できる避難所の準備が各国に比べて遅れているようです。 もし芦屋市において準備がまだでしたら、避難所へのパーティションや簡易テントなどの準備をお願いします。	B	感染症やプライバシー対策として、パーティション等の資機材を一定数備蓄しております。また発災時は応援協定等による外部からの提供により各避難所へ配備するなど避難所環境の向上を図ることとしております。
31	前期基本計画 施策分野4 安全安心	31ページ	7-2 自助、共助、公助の連携により、災害に備えます 国の方針かもしれませんが、自助・共助に頼るのではなく、基本は公助で不足部分を共助・自助にできないものでしょうか？ いざという時のことを市民自身に頼るのは危険です。 また、芦屋市のホームページは必要情報がすぐに見つけにくく、SNSも更新が頻繁ではないようです。 改善をお願いいたします。	D	阪神・淡路大震災や東日本大震災において、自助や共助の重要性が認識され、自助・共助・公助がうまくかみ合うことで災害時の被害を軽減できると考えます。 ホームページは、防災マップや災害情報についてはトップページに掲載しているところですが、引き続き、必要な情報が入手できるよう工夫していきます。 SNSは、災害時は気象情報や避難情報等、平時は防災総合訓練、ハザードマップの更新、その他防災に関する啓発情報を随時発信する運用を行っております。
32	前期基本計画 施策分野4 安全安心	33ページ	・施策8：日常の安全・安心が確保されている。 安全・安心の確保に向け、日頃から、地域の種々グループの育成(まちづくり防犯グループとの連携、見張り活動の支援、通学路の合同点検)に地道に取り組んでおられると思いました。	D	評価いただきありがとうございます。 引き続き地域の皆さまとともに関係団体等と連携しながら、安全・安心に取り組んでまいります。
33	前期基本計画 施策分野5 都市基盤	35ページ	・落ち葉が問題だからといって、樹を切るのはやめてほしい、美しい街には樹が必要。	B	これまでは樹木の剪定を行う際に、落葉の多い路線については時期を調整していた側面もあり、ご意見をいただいているような状況となっております。街路樹更新計画では、地域住民の負担を軽減できるような形での協働した落葉清掃のあり方を検討し、四季を感じてもらえるような街路樹の維持管理を進めていきたいと考えております。
34	前期基本計画 施策分野5 都市基盤	35ページ	9-2 良好な景観を守り、魅力を伝えます かつては泳げた芦屋浜がとても入れないくらい汚れています。 芦屋市だけの努力では難しいかもしれませんが、近隣市と連携して水をキレイにすることができればと思います。	D	芦屋浜を含めた大阪湾の水質改善のため、兵庫県において大阪湾流域別下水道整備総合計画が策定されております。この計画に基づき、大阪湾関連自治体は、下水の処理水質を向上させる「高度処理」を一層推進することとなっております。本市におきましても、その導入に向けて取り組んでいるところです。
35	前期基本計画 施策分野5 都市基盤	37ページ	施策分野5都市基盤 10-1 持続可能な交通インフラを保全します(道路・橋梁) 場所によっては、道路の白線が殆ど消えている箇所があり危険です。 もし警察の管轄であれば、芦屋警察への働きかけをお願いします。 以上、よろしくをお願いします。	B	道路の適切な維持管理として、白線が消えて危険な箇所については、随時、対応してまいります。 また、警察が管轄する箇所もあり、芦屋警察とも連携をとってまいります。
36	前期基本計画 施策分野5 都市基盤	37ページ	芦屋市の方向性が不透明です。JR芦屋駅南の開発により、ようやく市民のための街、経済活性化への一歩となるかと思いましたが、それも頓挫の様で非常に残念です。 反対意見は結構ですが、経済活性化への代替案もなく、芦屋市としてはジリ貧という言葉が相応しい現状となっているかと思えます。 ずっと芦屋で暮らしておりましたが、過去の芦屋ブランドも陰りが見えております。 住みたい町芦屋、も西宮北口が上位。国際文化都市とはいえ、神戸の方が圧倒的に外国人居住者が多いです。 そして福祉、駅前開発で福祉関連での住み良い町づくりがされるかと思いましたが、それもまた不可。 高級住宅街を支えてきていた働き盛りの方々も、高齢化で子供は市外に流れていると、銀行の方も仰ってありました。 南側の開発を辞めるのでしたら、それに代わる代替案を明確にしてください。 芦屋市が目指す、他市より特化したもの、特色を明示していただきたいです。	B	JR芦屋駅南地区再開発事業につきましては、現時点で取りやめは考えておらず、市内交通の円滑化や魅力あるまちづくりに必要な事業であると考えておりますので、ご理解をいただけるよう取り組んでまいります。
37	前期基本計画 施策分野6 行政経営	41ページ	春日集会所の統廃合計画には反対します。 理由 1. まず家より近いことです。高齢となり、車、自転車にも乗らなくなると歩いてすぐ行けることが一番です。 2. 今コロナの時、色々建設したりすることは、なされる人も、私たちも危険です。 日本は地震国でもあり、いつ南海トラフ地震がくるか、大阪、阪神間も大変ですよ！	D	本市は、既に人口減少局面に入っており、更なる少子高齢化に伴う社会保障関係経費の増加等により、厳しい財政状況が想定され、持続可能な行政サービスの維持・向上を図るためには、今ある全ての公共施設を保有したまま、更新を続けることも困難な状況であり、新たに公共施設を設置することはできません。 「公共施設の最適化構想(以下「最適化構想」という。)」は、将来世代へ負担を持ち越さない施設保有量となるよう公共施設の総量縮減を図るため、今後20年間に更新予定の施設の再配置に係る戦略的な考え方をお示しするものです。
38	前期基本計画 施策分野6 行政経営	41ページ	・町にひとつの集会所は必要です。	D	最適化構想に規定する各プロジェクトを具体的に進める際には、「最適化構想の実施方針」に記載のとおり、対象施設の更新時期にあわせて、施設所管課等によるプロジェクトチームを構成し、詳細に検討した上で、関係団体との協議や市民ワークショップ等を通じ、幅広い世代の様々なご意見を頂きたいと考えています。 最適化構想のプロジェクトの1つである「打出教育文化センターと春日集会所の更新にあわせた再配置及び打出公園との一体的整備」は、「打出の小道プロジェクト」の中心的取組として、地域全体の価値が向上するよう市民ワークショップや利用者の皆さまとの協議を通じて、打出教育文化センター等の施設改修を適切に進めてまいります。
39	前期基本計画 施策分野6 行政経営	41ページ	・集会所はなくさないで。	D	最適化構想は、具体的な施設の廃止等をお示しするものではないため、現春日集会所に関する具体的な回答をすべきでないと考えておりますが、集会所機能が移転された後の避難時の対応等を含む現春日集会所のあり方については、別途、地域の皆さまと協議してまいります。
40	前期基本計画 施策分野6 行政経営	41ページ	春日集会所の統廃合計画に反対します。 ・阪神淡路大震災経験者として、春日集会所の役割はとても重要でした。 これから南海トラフ地震をはじめ、各災害の避難所としての重要な役割である春日集会所をなくすことは受け入れられません。 ・地域住民のコミュニティの活動の場として、色々なグループが活発に活動しています。統合されることにより、次の施設でこれら全てが受け入れられると思われません。 震災を経験した芦屋市では避難所として、地域コミュニティの核として、集会所は増やすことがあっても減少は考えられません。	D	最適化構想は、具体的な施設の廃止等をお示しするものではないため、現春日集会所に関する具体的な回答をすべきでないと考えておりますが、集会所機能が移転された後の避難時の対応等を含む現春日集会所のあり方については、別途、地域の皆さまと協議してまいります。
41	前期基本計画 施策分野6 行政経営	42ページ	市職員を半減させて、ムダな業務をなくすこと。 又、職員の芦屋市民化(在住)を根本的に見直すこと。	D	職員に対する市内居住への誘導施策の実施までは考えておりませんが、職員数につきましては、新たな行政需要へ対応するとともに民間活力の導入やICT化の促進など効率的な行政運営を図り、引き続き適正化に努めてまいります。
42	創生総合戦略 全体	44ページ	2. 第2期創生総合計画 重点プロジェクトは、1期では関連事業の「ウイキペディアタウン」のワークショップに参加させて貰いましたが、推進体制も(政策推進課、生涯学習課のコラボ)、手法も、進め方もユニークで新鮮だったし、SNS社会に生きている事を肌で感じる事が出来た。2期の3つのプロジェクトにも大いに期待したいと思えます。 3. おわりに 今回拝読し、芦屋の課題と、その解決にあたる行政のお考えと取り組み姿勢も、良くわかりました。そして、市民一人ひとりは、何事もすぐに「公助」に頼らず、まずは、「自助、共助」の姿勢で臨む、もっともっと「賢い市民」になる必要があると思えました。	D	本市の事業にご参加いただき、ありがとうございます。 第2期創生総合戦略においても、人口減少社会に対応するべく、重点プロジェクトを中心に取り組み、地方創生を一層推進してまいります。

番号	項目	該当箇所	市民からの意見（原文）	取扱区分	市の考え方
43	創生総合戦略 全体	49ページ	●人口減少社会は今のままでは必ず来ると思うが、少子化対策を的確に行っていけば特殊出生率を上昇させることは十分に可能だと思う。ほとんど少子化対策もせずに人口減少社会は「社会の変化」として当然であるかのように考えて、はたしてこれからの将来への希望が生まれるのだろうか。総合計画で必要なのは、「人口が減少していく中でも…ワクワクできるまちにしてい」ことよりもこれ以上の少子化が進まないように、芦屋市が健全にゆるやかに発展できるようにすることのほうが大切ではないかと思うがいかがか。	C	人口減少に歯止めをかけるため、第2期創生総合戦略も合わせて策定し、重点的に取り組むべき課題として出生率の向上に取り組んでまいります。
44	その他		・保健所は残してほしい。	D	総合計画は、市の長期にわたる総合的かつ計画的な行政運営の指針となるものであり、各施策分野の目的や方向性を示すものとなります。
45	その他		・保健所はなくさないで。	D	芦屋健康福祉事務所の移転に関しまして、所管している兵庫県に対し、市民サービスに影響を与えないよう引き続き要望してまいります。
46	その他		人口減、税収減が避けられない、厳しい見通しが明確であることから、市議会議員の定数、報酬、期末手当を大幅に削減すべきだと思います。	D	市議会に関することは市議会で検討いただくこととなりますので、ご意見を市議会へお伝えしました。